ACCESS

京都駅から15分圏内の交通至便な環境にあります



藤森キャンパス
JR奈良線「JR藤森」駅下車徒歩約3分 京阪本線「墨染」駅下車徒歩約7分

京都教育大学　藤森キャンパスまでの所要時間

京　都	約10分	JR藤森駅・京阪電鉄墨染駅
亀　岡	約50分	
園　部	約70分	
大　津	約20分	
彦　根	約70分	
大　阪	約50分	
奈　良	約60分	
三ノ宮	約60分	



大学院棟（G棟）

問い合わせ先

京都教育大学

入試課 入試グループ
Tel.075-644-8161　nyushi@kyokyo-u.ac.jp
〒612-8522 京都市伏見区深草藤森町1番地
平日の9:00～17:00（12:30～13:30を除く）

京都教育大学大学院
連合教職実践研究科案内

The United Graduate School of Professional Teacher Development



京都連合教職大学院

京都の8大学が連合し、確かな学術的理論と教育実践力、豊かな知性と感性を兼ね備えた資質の高い教師を育てます。

京都教育大学／京都光華女子大学／京都産業大学／京都橘大学
京都ノートルダム女子大学／同志社大学／同志社女子大学／龍谷大学

教育に情熱をもつ者、来たれ！



京都教育大学長・研究科長

太田　耕人

「大学のまち」京都にふさわしく、8つの大学が多様な人材を出し合い、日本初の連合教職大学院を開設したのは、今から17年前、平成20年のことでした。そのレガシーを受け継ぎ、今では基幹大学である本学と私立7大学とが連合し、京都府・京都市教育委員会と全面的に連携しています。

令和４年には、時代の要請に応えて改組をおこない、「学校臨床力高度化系」「教科研究開発高度化系」を設置しました。

「学校臨床力高度化系」では対話と省察を通して実践力を磨き、学校で生起する問題にたいしてその本質を読み解く力を培います。「教科研究開発高度化系」では各教科の基礎を成す学問分野や、幼児教育、教育学、心理学、特別支援教育を究め、教科横断的に教科教育を学びます。

専門的な視野をひらき、高度な学問的知識を養うことについては、教職大学院も他の大学院と何ら変わりありません。ただし、教職大学院は、研究者ではなく「専門職」(professional)としての教師を養成します。子どもと向き合い、学校現場の課題に取り組み、学問的知見を応用してその解決を目指します。

自らを高めたいと望む現職教員のみなさん、教員を志す学部生のみなさん、この大学院で教育のプロフェッショナルを目指しませんか。

連合参加大学あいさつ

京都光華女子大学

京都産業大学

京都橘大学

京都ノートルダム女子大学

同志社大学

同志社女子大学

龍谷大学

各大学が有している人的資源と蓄積している知的資源を最大限に発揮し教育界の将来に大きく貢献します。

我々、京都の7つの私立大学は京都教育大学と連合して、実践的指導力を備えた若手教員のコア及びスクールリーダーの養成を目的とした「京都教育大学大学院連合教職実践研究科」の設置に参画しています。連合参加大学は、これまでも各大学でそれぞれ特色のある教員養成を進め、多くの教員を輩出してきました。これらの教員は、幼・小・中・高などの様々な学校現場で活躍してきています。このような実績を基にして、新たな連合教職大学院における高度な教員養成の取り組みに参画することで、各大学においても、実践的指導力に富む教員養成が進められると期待しています。

連合教職大学院においては、参加各大学の教員が専任教員として、教育・研究及び運営に携わります。また、各大学等の代表者で組織される連合教職大学院構成大学・連携機関代表者会議に参加し、本研究科の評価・点検に関わることで、その運営・改善にも重要な役割を担います。

全国初の国立大学と私立大学の連合という形態で設置された本研究科において、各私立大学が有している人的資源と蓄積している知的資源を最大限に発揮していくことで、我が国の教育界の将来に大きく貢献できると考えています。

連合教職大学院への期待

❖京都府教育委員会

常に時代の変化に応じた教育を追究する「学び続ける教員」の養成機関として、更なる充実と発展を期待しています。

これからの社会は将来予測が困難な時代といわれていますが、そうした中、こどもたちを育む教員の役割は一層重要となり、ＩＣＴ等の先端技術の活用も含めた必要な知識・技能を常に学び、教職生活全体を通じ力量を高めていくことが求められています。

現実に新型コロナウイルス感染症への対応など、予期できなかったことが社会課題として生じており、今後の教育について、人口減少社会の中でこどもたちが直面するSDGsをはじめとする様々な課題に主体的に向き合い、解決に繋げていく力を養っていくことが重要となっています。

多様な価値観や学びが広がる中で、学校や学ぶことの意義が改めて問われているところであり、京都府教育委員会では、多様な他者と関わり、対話を通じて学び合う学校の営みを大切にしながら、これからの学びを支えるＩＣＴ等を効果的に活用しつつ、「主体的に学び考える力」、「多様な人とつながる力」、「新たな価値を生み出す力」をはぐくんでいます。

連合教職大学院では、コース毎に特色ある教育課程を編成し、カリキュラムの中心に教職専門やフィールドワーク等の実習を据え、理論と実践との往還を通じて高度な専門知識や実践指導力も有する教員養成に成果をあげてこられました。

また、連合を構成する大学の英知を集めたカリキュラムになっており、高度職業専門人として、常に時代の変化に応じた教育を追究する「学び続ける教員」の養成機関として、更なる充実と発展を期待しています。

❖京都市教育委員会

連合教職大学院に、急速に変化していく社会に対応できる高度な専門性と実践的指導力を有する教員の養成を期待しています。

今日、社会構造が急激に変化し、将来を予測することが困難な時代と言われています。子どもたちがこれからの時代を生き抜くためには、様々な変化に主体的に向き合い、多様な他者と協働し豊かな人間関係を築きながら、自分らしい生き方を探究する「生きる力」を育成することが求められています。

京都市では、「伝統と文化を受継ぎ、次代と自らの未来を創造する子ども」を目指す子ども像として、子どもたちの生きる力の育成に向け、社会の変化に応じた新たな考えや発想を取り入れながら、京都ならではの実践を進めています。今後も、子どもたちを取り巻く環境が大きく変容していく中で、市民ぐるみ・地域ぐるみで進めてきた「一人一人の子どもを徹底的に大切にする」京都の教育実践をさらに推進していくためには、新たな課題や変化に柔軟に対応できる思考力と確かな指導力を備えた教員が必要です。

連合教職大学院ではこれまでから、教育の理論と教職の実践との往還を通して、高度な専門的知識と実践的指導力を有する教員の養成を進めてこられました。京都市教育委員会といたしましても、創設当初からの参画組織として、市立学校園での教職専門実習やフィールドワーク、優れた実務家教員の派遣など、全面的な支援を行ってきたところです。

引き続き、連合教職大学院には、充実したカリキュラムと参画する8の大学が有する知的財産、人的財産の有機的な連携により、これまでの実践にさらに磨きをかけ、学校現場に山積する教育課題や社会の変化に柔軟に対応できる確かな理論と優れた実践力・応用力を兼ね備えた教員の養成を期待しています。

京都連合教職大学院の理念と教育目的

高度な専門職としての教師をめざして

本研究科がめざす教員は、豊かな知性と感性、確かな学識と教養を持ち、創造的に教育実践を担うことのできる専門職としての教員です。それは、知的関心による探究心をもち、常に自ら学び続けることにより、子どもの主体的な学びを支援することができる教員です。そのため本研究科に学ぶ者は、常に主体的に考え、学び続ける姿勢を持ち、広い視野に立った社会性を培うことが求められます。

本研究科の教育目的は「学部における教員養成教育と現職教員の教職経験の上に、教育の理論と教職実践を深く追究させることにより、教職に関する高度専門的な知識と実践的指導力を統合的に有する教員を養成する」ことです。

連合により設立された本研究科では、教員に求められる自律性と多様性を尊重し、豊かな知性と感性に根ざした高度な専門職としての教員の輩出を使命とし、多様な連合構成大学・連携機関のリソースを生かした教育活動を展開します。

京都連合教職大学院の概要

教職大学院は、教員養成に特化した専門職大学院であり、「高度の専門的な能力及び優れた資質を有する教員の養成のための教育を行うことを目的」（専門職大学院設置基準第26条）として、①実践的な指導力を備えた新人教員の養成　②現職教員を対象にスクールリーダー（中核的中堅教員）の養成を行うものです。

京都連合教職大学院は、京都教育大学を基幹大学とし、私立7大学（京都光華女子大学、京都産業大学、京都橘大学、京都ノートルダム女子大学、同志社大学、同志社女子大学、龍谷大学）と、京都府教育委員会、京都市教育委員会が連携した、国私立連合による教職大学院です。

学校教育が抱える課題の複雑・多様化

「主体的・対話的で深い学び」の支援
規範意識・自律心の低下
社会性の不足
いじめや不登校等

教育を取り巻く社会の激しい変化

主体的・対話的で深い学び
知識基盤社会の到来　Society 5.0
グローバル化　少子化　高齢化 等

教員をめぐる状況

チームとしての学校
働き方改革

21世紀をたくましく生きる教師を育成

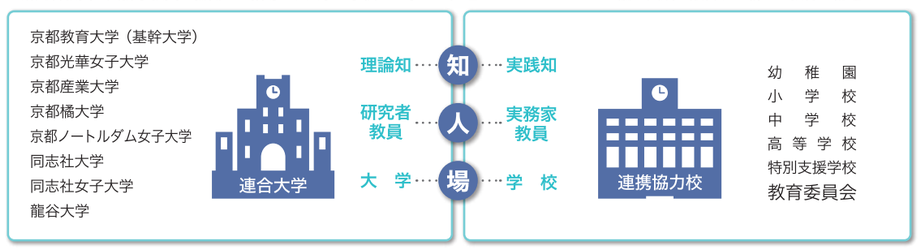
めざす教員像

高度な専門性と豊かな人間性・社会性を備えた力量ある教員、かつ社会の変化に対応し、多様な教育課題を解決できる教員

学部新卒院生：新しい学校づくりの有力な一員となる新人教員　　**現職教員院生**：地域における指導的教員・学校管理職

京都教育大学大学院連合教職実践研究科（京都連合教職大学院）

- **京都国私立８大学連合、京都府・京都市教育委員会、学校の協働体制を構築**
- **学部新卒院生と現職教員院生のキャリアに応じた教育課程を編成し高度専門職としての教員を養成**
- **研究者教員と実務家教員が協働して指導し、大学と学校での学びを往還させることによって理論と実践を融合する新しい教育の創造**



京都連合教職大学院の魅力ある６つの特色

1 京都の国私立8大学と京都府・京都市教育委員会の協働による設置と運営

本大学院は、京都教育大学を基幹大学として、京都光華女子大学、京都産業大学、京都橘大学、京都ノートルダム女子大学、同志社大学、同志社女子大学、龍谷大学との連合により、京都教育大学内に設置し、協働して運営しています。

各大学、京都府・京都市教育委員会、公立学校の、各機関が蓄積している知的資源と有している人的資源を最大限に活かした、魅力ある大学院です。

2 大学と学校教育の場を学びのフィールドとする特色ある教育課程

共通科目、コース必修科目、コース選択科目、教職専門実習で構成される教職大学院の教育課程を各教員が得意分野を生かして担当します。

教職の専門性を高めるため、大学での学びと公立学校（連携協力校）や京都教育大学附属学校園を学びのフィールドとし、実習やフィールドワークを通じて学校教育をより深く理解すると共に、現場が直面している今日的教育課題を解決できる力量の形成をめざします。

3 研究者教員と実務家教員によるきめ細かな院生指導

本大学院には、連合構成8大学と京都府・京都市教育委員会から各領域を専門とする研究者教員と教育実践に精通した実務家教員という専任教員が結集し、それぞれの専門性と個性を発揮しつつ協働して、授業や実習指導、ゼミ指導等にあたっています。

特に学部新卒院生には、研究者教員と実務家教員が密接に連携し、院生の個別ニーズに対応しながら、きめ細かく実習指導や修了論文指導、就職支援などにあたります。

4 教育実践に精通した教員による教職専門実習指導と教員就職支援

学部新卒院生の実践力を高めるため、教職経験豊かな実務家教員が中心となり、実習校の指導教員と連携し、徹底した実習指導を行います。

また、２年間を見通した計画的、組織的な就職指導を実施すると共に、徹底した個別指導により、全員が教員の道を歩めるようサポートします。

現職教員院生については、地域の指導的教員、学校管理職となって活躍できるよう教職キャリアに応じたサポートを行います。

5 グローバル社会で活躍する教員を育成する国際化プログラム

創設以来、教員としての国際性を育成するためのプログラムを開発、実施しています。

本学の学術交流協定大学（中国）で、研修やフィールドワーク、教員をめざす院生との交流等を行う海外教育研修を実施しています。

さらに、海外から現職教員や大学院生を教員研修留学生や研究留学生として毎年受け入れ、院生が諸外国の現職教員と共に学ぶグローバルな学びの環境が整っています。

6 交通至便なキャンパスと多様な修学方法

本大学院キャンパスは、京都駅から１５分圏内の交通至便な場所にあります。

標準修業年限は２年ですが、現職教員院生のニーズにあわせて、１年間フルタイムで学ぶ短期履修型、勤務をしながら主に夜間の授業を履修し３年又は４年で修了する長期履修型など多様な修学方法が選択可能です。

専門職学位「教職修士（専門職）」

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本研究科では、教育及び教科の理論と教職の実践との往還を通じて、教職に関する高度な専門的知識と実践的指導力を統合的に有する教員となるために、以下の能力を修得することを修了認定の基準とします。

修了者には専門職学位「教職修士（専門職）」が授与されます。

1
教師として教育の現状や課題を多様な文脈から読み解く力と今後のあり方を構想する力

2
教職に必要とされる高度な専門的知見に基盤をおいた実践的指導力

3
自己の職能を向上させるための実践に基盤をおいた省察力と研究開発力及び組織運営能力

4
豊かな人間性、社会性と高い職業倫理にねざした職務遂行力

京都連合教職大学院の教育組織

「主体的・対話的で深い学び」を実現するなど新しい学校教育を推進し、次世代の学校づくりに貢献できる教員を大学院レベルで養成し、教職と教科の高度な専門性及び教育実践力と教育実践に関する研究遂行力を育成することを目指して、京都連合教職大学院の改組を行いました。それは、教育学研究科において実践してきた高度な教育関係諸科学の教育研究の蓄積を生かして、一層高度な教員養成に取り組むことを目指したものです。

京都連合教職大学院の教育組織は、以下の通りです。

学校臨床力高度化系

学校現場において直面している諸課題、すなわち「主体的、対話的で深い学び」の推進、不登校、いじめなどの子どもに関わる諸課題に対して、その背景や問題事象が発生する文脈を読み解き、より質の高い実践力を発揮することができる学校臨床力の向上を図るとともに、その実践の組織化を図ることができるマネジメント力を育むことにより、高度の学校臨床力を備えた人材並びに学校臨床力の組織化を推進する高度の学校経営力を備えた人材を育成することを目的としています。

本系では、学校の現実、子どもや保護者、地域の実態に常に向き合い、院生の教職キャリアに応じて力量形成を図ることができるように、初任期教員を対象とするコースと初任期以降の教員を対象とするコースを設置しています。



学校臨床力高度化系主任　**竺沙　知章**

教職大学院が発足して、17年が経過しました。本格的な実践的研究に基づき、教師教育を行う教職大学院の取り組みは、着実に成果を上げています。学校臨床力高度化系は、これまでの教職大学院教育の成果を土台に、「臨床の知」を豊かにすることを目標としています。学校現場での学びを重視したカリキュラムを編成しているため、年間を通じて学校現場に出かけ、学校の実態や子どもの実態に直接触れる機会が豊富です。様々な学校で、様々な経験を積み重ね、その経験の省察・分析に力を入れて取り組むことにより、教師に必要な確かな実践力を育成することをねらっています。院生と教員とが共に学ぶことを基本方針に掲げていますので、教師を目指すみなさん、そして現職教員のみなさんと一緒に、これからの学校教育のあり方をみんなで考えていきます。

教科研究開発高度化系

教科教育等の専門的内容や教育学や心理学に関する理論や分析手法を身につけ、教材、カリキュラム、学習、学校教育に関わる研究開発を通して、学校教育の質的向上を牽引するような「知」を生み出し、将来的に校内の研究主任、地域の研究会の中心、教育委員会の指導主事などになりうる力量を備えた人材を育成することを目的とします。この目的を達成するために、「人間発達探究コース」と「教科学習探究コース」を設置します。



教科研究開発高度化系主任　**黒田　恭史**

教科研究開発高度化系では、各教科、教育学、心理学、幼児教育、特別支援教育に重点化したプログラムや領域を設定し、教科や領域の基礎となる諸科学について専門的な理解を深め、教育（保育）内容と指導法を一体的にむすびつけて授業（保育）を効果的に展開できる高い実践的指導力を身につけることを目指しています。本系では教育学研究科修士課程のこれまでの蓄積を生かして、自らの教育実践を俯瞰できる広い視野と諸課題に柔軟に対応できる実践的指導力を身につけることができます。多様かつ高度で専門的な学びを可能とするために、自らのテーマに合わせて選んだ指導教員を含む複数の教員による指導体制を組み、きめ細かな指導を行い皆さんの探究をサポートします。新しい教科研究開発高度化系で一緒に学びましょう。

京都連合教職大学院の特色ある教育課程

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

本研究科では、教育及び教科の理論と教職の実践との往還を通じて、教職に関する高度な専門的知識と実践的指導力を統合的に有する教員を養成するために、以下の科目群による教育課程を編成しています。

1. 教職について体系的・総合的に思考・判断する力を育成するために置かれる、5領域からなる「共通科目」群
2. 学修の成果をまとめる力、教職専門職業人に求められる能力を育成するために、各コースの特性に応じて置かれる「コース必修科目」群
3. 個々の課題意識をさらに深め、幅広い専門的知識に裏付けられた高い実践力を育成するために、各コースの特性に応じて置かれる「コース選択科目」群
4. 学校園での実務的経験を通して教職の実際について理解を深め、教師に必要な人間性、社会性、倫理観を涵養するとともに、自己の職能を向上させるための実践と省察を行うために、1年次と2年次とに分けて置かれる「実習科目」「省察科目」群

教育課程の構造

	学校臨床力高度化系		教科研究開発高度化系	
	初任期教員養成コース	中核教員・リーダー教員養成コース	人間発達探究コース	教科学習探究コース
	学部新卒院生40名（教職経験3年未満の現職教員院生含む）	教職経験3年以上の現職教員院生10名	学部新卒院生15名（現職教員院生含む）	学部新卒院生30名（現職教員院生含む）
	計46単位	計46単位	計46単位	計46単位
教職専門実習 学校での実務的経験を通して、教職の実際について総合的に理解を深め、実践的指導力を高める実習科目	教職専門実習　2科目10単位　※教職経験に応じて実際の実習期間が変更となる場合がある。			
共通科目 各コース共通で、高い教職専門性を育成する上でコアとなる基礎科目	共通科目Ⅰ　教育課程の編成・実施に関する領域　1科目2単位			
	共通科目Ⅱ　教科等の実践的な指導方法に関する領域　2科目4単位			
	共通科目Ⅲ　生徒指導・教育相談に関する領域　1科目2単位（臨）　2科目4単位（教）			
	共通科目Ⅳ　学級経営・学校経営に関する領域　2科目4単位			
	共通科目Ⅴ　学校教育と教員の在り方に関する領域　2科目4単位（臨）　1科目2単位（教）			
コース必修科目 各コースが目標とする資質能力を育成する上で、コアとなる専門科目	コース必修科目　6科目12単位	コース必修科目　4科目8単位	コース必修科目　7科目14単位	コース必修科目　5科目10単位
コース選択科目 個々の課題意識によって幅広い学識と高い実践力を育成する専門科目	コース選択科目　4科目8単位	コース選択科目　6科目12単位	コース選択科目　3科目6単位	コース選択科目　5科目10単位

※表中の（臨）は学校臨床力高度化系、（教）は教科研究開発高度化系を示しています。

共通科目　8科目16単位

共通科目は、教職コア科目としての５領域８科目16単位の履修により、教職の専門性を体系的・総合的に学ぶことを目的としています。基本的には１年次に履修します。

講義で理論的アプローチによる学びを行い、基礎知識を習得するとともに、今日的課題を整理します。演習では、理論的アプローチによる基礎知識を踏まえて、事例研究、模擬授業等のアプローチにより、実践的課題について知見を深めるとともに、自らの実践力の課題を明確にします。そして５領域の各科目で学んだことを各自で総合化し、分析・省察を通じて理論的な再構築を行うことが期待されます。そこに理論と実践の往還をめざした教職大学院での学びの特色があります。

各領域を専門とする研究者教員と教育実践に精通した実務家教員とがペアとなって担当することを基本としています。また授業科目によっては、「学部新卒院生」と「現職教員院生」とでクラスを分けて授業を行うものもあります。

共通科目【学校臨床力高度化系】

区分		授業科目名(各2単位)	授業の概要
第Ⅰ領域 教育課程の編成・実施に関する領域	選択必修	カリキュラムの開発と実践A (初任期教員養成コース)	本科目では各教科の単元計画を構想する。単元目標を達成するために各授業をどのように関連させて単元を構想するのかを学ぶ。また、ミドルリーダーとして各校の研究主任を担った場合に、各校のカリキュラムマネージメントができるように、現代的なテーマの「カリキュラム開発と運営の実際」を学ぶ。フィールドワークは先進的なカリキュラムを開発している小中学校において、その開発の方法と運営について実践的に学ぶ。
	選択必修	カリキュラムの開発と実践B (中核教員・リーダー教員養成コース)	本科目では各教科の単元計画を構想する。単元目標を達成するために各授業をどのように関連させて単元を構想するのかを学ぶ。また、これまでの現場での経験を踏まえて、各校のカリキュラムマネージメントができるように、現代的なテーマの「カリキュラム開発と運営の実際」を学ぶ。フィールドワークは先進的なカリキュラムを開発している小中学校において、その開発の方法と運営について実践的に学ぶ。
第Ⅱ領域 教科等の実践的な指導方法に関する領域	必修	授業デザインとICT活用A	教育におけるICT活用の在り方を、教育方法学の様々な概念装置を活用して捉え直し、活用する技術を身につけるとともに、授業デザインにつなげることを目的とする。具体的には、ICTを使った教育方法の実践事例・言説に対する批判的分析、実際の機器を使用した演習、授業のデザインと検討を行う。
	選択必修	教科指導実践演習A (初任期教員養成コース)	実務家教員より「教科における授業づくりの手順とポイント」および「模擬授業」について説明を受ける。この説明をもとに受講生は「授業の指導計画と教材研究、学習指導案づくり」を行い、「模擬授業」を実施し自身の課題の発見と修正をおこなう。続いて校種(小・中)別にフィールドワークを実施する。フィールドワークでは、教科の授業を中心に参観し、授業目標・内容・方法などを観察する。その上で、受講生は再度「模擬授業」を実施する。第２回目の模擬授業では課題を修正しよりよい授業をおこなうことが求められる。最後にグループワーク・全体討論などをおこない、自身の教科指導力を高める。
	選択必修	教科指導実践演習B (中核教員・リーダー教員養成コース)	自身の授業実践上の課題や校内の授業改善の課題について、フィールドワークや模擬授業・グループワークにより課題解決の方策を探る。フィールドワークは、言語活動の充実・共同的な学習・通常学級における特別支援など、授業改善のポイントとされる課題について研究を進めている学校を予定している。フィールドワークでの学びを生かし、「模擬授業」を行い、グループワーク・全体討論により自身の「授業改善案」を作成する。
第Ⅲ領域 生徒指導、教育相談に関する領域	選択必修	生徒指導・教育相談の理論と実践A (初任期教員養成コース)	広義の生徒指導のあり方について学ぶ。非行や体罰、いじめ等についてその基本的な考え方、個別指導、集団指導、学級・学年・学校経営、学習や授業との関連、学校内外の連携やチームによる支援、また特別支援教育とのかかわりなど、今日的な生徒指導上の具体的な課題について、教育学の知見をベースに、総合的な生徒指導力を身につけることを目指す。
	選択必修	生徒指導・教育相談の理論と実践B (中核教員・リーダー教員養成コース)	非行や体罰、いじめ等の対応について、学級経営・学年経営・学校経営の視点から、これまでの自身の経験を振り返る。さらに、特別支援教育の考え方をふまえたチームによる支援や学校内外との連携など、刻々と変わる新たな生徒指導に関する考え方についても学ぶ。ミドルリーダー・管理職として、自分の勤務する学校の生徒指導体制を再確認しながら、今後に向けて生徒指導計画案を検討するなどして、総合的な生徒指導力の向上を目指す。
第Ⅳ領域 学級経営、学校経営に関する領域	選択必修	学級経営の実践と課題A (初任期教員養成コース)	学級経営とは学級における教育の全領域を通して行われる核となる機能であり、教員・児童生徒・保護者の複雑な相互作用のなかで展開される。そのため、断片化した技術ではなく、文脈依存的な力量が必要であり、根本的な見方や考え方を身につける必要がある。したがって、授業では理論的な考え方や事例の検討、ロールプレイ、学校でのフィールドワークなどを通して、学級経営について具体的なイメージを持ち、自分なりの見方・考え方を身につけることを目指す。
	選択必修	学級経営の実践と課題B (中核教員・リーダー教員養成コース)	本授業では理論と実践との架橋という観点から大きく３つの内容から構成する。１つめは学級経営の今日的課題に関すること、２つめは理論を踏まえた若手教員や初任者教員への支援のあり方、３つめは校内体制の見直しに関することである。最後の時間に勤務校の学級経営体制を練り直して作成したレポートを発表し合う。
	選択必修	学校づくりと学校経営A (初任期教員養成コース)	学校における教育関係に関する省察を行うための知識基盤の形成を目指して、学校教育の歴史、制度、実態について学習し、学校観の更新を図るとともに今日の学校経営の課題と教師の役割についての理解を深める。
	選択必修	学校づくりと学校経営B (中核教員・リーダー教員養成コース)	自律的な学校経営を行うための教育課程の編成方法について、先進事例の分析をもとにカリキュラムマップの作成などを通して教育課程編成を行う実践力を身に付ける。
第Ⅴ領域 学校教育と教員の在り方に関する領域	必修	現代社会と学校教育	多種多様な問題を生み出し、それへの対応や解決の道筋が不透明になっている今日の学校教育のあり方について、公教育・学校教育の本質的な認識や社会変化によるその課題を整理するとともに、さまざまな問題現象に関するディスカッション、対話を通じて理解を深めていく。
	必修	教員の職務と役割	公教育制度における教員の職務と役割について、その法制度に関する理解を深め、専門職としての教員の社会的責任、法的責任について考察する。特に、教員の職業倫理について考察し、理解を深めること、裁判となり、法的責任をめぐって争われた事例について検討することにより、論理的思考力、判断力を養うこと、教員の資質向上について検討し、どのような教員を目指すか自ら目指す教員像について考察するものである。

(※)授業科目名末尾の記号:「A」は初任期教員養成コース、「B」は中核教員・リーダー教員養成コースの科目です。ただし、「授業デザインとICT活用A」及び第Ⅴ領域(２科目)の科目は、両コース合同科目です。

共通科目【教科研究開発高度化系】

区分		授業科目名(各2単位)	授業の概要
第Ⅰ領域 教育課程の編成・実施に関する領域	必修	カリキュラムの開発と実践C	各教科等の単元計画を構想する際、単元目標を達成するために各授業をどのように関連させて単元をつくるのかを学ぶ。また、ミドルリーダーとして各学校の研究主任を担った場合に、学校全体を視野に入れたカリキュラム・マネジメントができるように、現代的なテーマに関するカリキュラムの開発と運営の実際についても学ぶ。その際、幼小接続の考え方についても検討する。
第Ⅱ領域 教科等の実践的な指導方法に関する領域	必修	授業デザインとICT活用C	まず担当者がそれぞれの視点から幼児教育から高等学校教育においてICTを利用することの意義や課題について述べる。次に、授業における特色あるICT活用の実践を行っている京都府市の小中学校(いずれかの対象校1校)を訪問し、授業参観及び担当教員へのインタビューを行い、授業における特色あるICT活用の実践方法、課題等について理解を深める。そして数人のグループに分かれて、ICTを活用した授業をデザインする演習を通して、ICTを活用した授業づくりのための授業(保育)デザイン力を高める。
	選択必修	教科指導実践演習C	理系・文系・芸体系研究者教員より「教科における授業づくりの方法とポイント」および「模擬授業」について説明を行う。この説明をもとに受講生は「授業の指導計画と教材開発・研究、学習指導案づくり」を行い、「模擬授業」を実施し自身の課題の発見と修正をおこなう。続いて校種（小・中・高）別にフィールドワークを実施する。フィールドワークでは、教科の授業を中心に参観し、授業目標・内容・方法などを観察する。その上で、受講生は再度「模擬授業」を実施する。最後にグループワーク・全体討論などをおこない、自身の教科指導力を高める。
	選択必修	【幼児教育専門履修科目】 保育内容指導法演習	領域「表現」「言葉」を中心に具体的な指導場面を想定した教材研究を行い、幼児の音楽的・言語的発達の特性をふまえた環境構成と援助のあり方を理解する。ロールプレイやグループディスカッションを通して、幼児の主体的な表現を引き出す指導技術を習得する。また、国内外の先進的な保育実践について映像教材等から学び、わが国における実践上の問題点などに関してディスカッションを行う。
第Ⅲ領域 生徒指導、教育相談に関する領域	必修	生徒指導・教育相談の理論と実践C	学校教育における「子ども理解」を主軸とした、生徒指導・教育相談及び特別支援教育についての基本的な理論と課題を学ぶ。1．生徒指導・教育相談の基本事項、アセスメント、カウンセリング・マインド、チーム支援や保護者支援について、基本的な知識を身に付ける。2．特別支援教育に関する講義・演習を通して、多様な背景を持つ児童生徒を対象とした生徒指導・教育相談について理解を深める。3．フィールドワークや事例のディスカッションによる実践的な学びを通して、子ども理解の視点を、学校現場における生徒指導・教育相談、さらには教科指導にいかに生かしていくかについて考え、教職専門実習Ⅰにおいて取り組む課題を明確化する。
	選択必修	生徒指導・教育相談実践演習	『生徒指導・教育相談の理論と実践』で学んだ理論や子ども理解の視点及び教職専門実習の経験を基盤に、観察とディスカッションに力点を置いた演習を通して、多様化・複雑化する生徒指導・教育相談上の課題に取り組む際に、多様な視点から、児童生徒の行動の背景に想像力を働かせ、児童生徒及び教師自身の情緒的体験を探索し、答えのない事態に持ちこたえて考え続ける力の醸成を目指す。フィールドワーク（子どもを見ることを目的とする授業観察）、ワーク・ディスカッション（子どもと教師の情緒的交流の理解と探索を目的とする事例検討）、ロールプレイの3つを柱とする演習を行う。
	選択必修	【幼児教育専門履修科目】 幼児期の教育相談	この授業では、育児・保育の現場が抱える諸問題を理解し、現場での支援の理論的かつ具体的方法について学び、育児現場、保育現場それぞれにおける教育相談のあり方と展開について理解を深めることを目的とする。授業内容は受講生のニーズも取り入れ、オリエンテーション時に協議して決定する。
第Ⅳ領域 学級経営、学校経営に関する領域	必修	学級経営の実践と課題C	学級経営という言葉の不思議さは、経営の主体と対象が必ずしも明らかでない点にある。幼児・児童・生徒は学級経営の主体か対象か、学級担任教員はどんな立ち位置を占めるのか。これら学級という場の不思議さを見つめるとともに、そこでの教員の力量の基礎として、広い視野とともに多面的な状況理解を促すことが目標である。授業では学級に関する基本用語の検討のほか、映像資料の視聴やロールプレイ等を通して、学級経営とその環境について複数のイメージを持てること、そして教育実践上の多様な方略を持てることを目指す。
	選択必修	学校づくりと学校経営C	教員として学校教育に携わる上で求められる、学校経営の理念、制度、実態に関わる基礎的理解を深めるとともに、自身の学校観と教育観あるいは児童生徒観を揺るがし恒常的な更新につなげられる、学校教育の批判的考察と分析上の力量の基盤を築くことを目指す。
	選択必修	【幼児教育専門履修科目】 幼児期における クラスづくりと園づくり	乳幼児期の教育における集団生活と保育者の役割を理解した実践ができるようになるために、乳幼児期における個と集団の育ちの特徴を理解する。その上で、年間指導計画や実践についてクラスづくりに関する課題の分析・評価を行い、改善の方策について考える。また、家庭や地域社会と連携した質の高い幼児期の教育の展開として、社会に開かれた幼児教育について実践事例を通して学ぶ。
第Ⅴ領域 学校教育と教員の在り方に関する領域	必修	社会と学校教育・教員における現代的課題	人権教育、グローバル教育、共生教育等の理念について学ぶ。具体的には、子どもの生活・社会的背景の多様性や差別について理解したうえで、子どもの貧困、虐待、外国人幼児児童生徒、学校教育が直面する現状と課題について深く分析し、教員としての関わり方を考える。

(※)授業科目欄に【幼児教育専門履修科目】の表記がある科目は、幼稚園教諭専修免許状取得に関わる科目です。

コース必修科目

コース必修科目は、共通科目での学修を基盤として、各コースが目標とする資質能力を育成する上で中核となる専門科目群です。コースにより科目数が異なります。（各コースの科目名は、各コースのページをご覧ください。）

学校臨床力高度化系共通の省察実践研究、教科研究開発高度化系共通の教育実践研究セミナー、実践課題研究は、教職専門実習を含む他の授業科目での学びを振り返りながら、課題を発見し、探究すべきテーマを見出すことにより、学びの総合化、体系化を図り、実践力の向上を目指す中核となる科目です。院生には、これらの科目を通じて、主体的、対話的に深く学ぶことが期待されます。

教職専門実習

教職専門実習の目的

教職大学院のカリキュラムの特色のひとつに「教職専門実習」（１０単位）があります。講義による学びと学校現場での学びを往還させ、理論と実践の架橋をめざす新しい教育を生み出す重要な科目がこの教職専門実習です。

教職大学院が創設された目的に「実践的指導力」のある教員の養成があります。本研究科では、実践的指導力とは実務能力に優れているということだけではなく、多様で複雑な教育課題のある中、子ども、保護者、教職員等との信頼関係を築きながら、これらの課題に的確、柔軟に対応しつつ、創造的に教育実践を担っていける力であると考えています。それには、理論知を実践の中で読み解く力、実践の中から普遍的な知見を練り上げる力が必要です。この力を育てることが実習の重要な目的です。

教職専門実習の特色

- 講義と実習との往還を促すため、10単位の実習を、専門実習Ⅰ（3単位）と同Ⅱ（7単位）の2期にわけて実施します。
- 教職専門実習を通じて見いだした課題と、研究科での学びの集大成である修了論文のテーマを関連づける実習となることをめざしています。
- 学習指導、児童・生徒指導、校務分掌理解を中心に、実習校の準スタッフとしての業務を体験することで、教員の職務全般を理解します。
- 実習では体験と同時にそれを省察し、そのことを交流する機会が重要です。実習校での振り返りに加えて、実習期間中に定期的に大学に戻り指導教員の指導の下、省察と交流の場を持ちます。
- 京都府・京都市教育委員会との連携の下、教職専門実習に関する委員会等には、実習校の校長先生や指導担当の先生方も加わっていただき、よりよい実習指導のあり方について検討・協議を行います。実習指導の改善に向けて、教職大学院と実習校とが共に取り組みを進めています。

授業科目の概要

学校臨床力高度化系

■学校臨床専門実習Ⅰ

初任期教員養成コース▶1年次において、連携協力校における実習等を通して、学校が抱えている教育課題の理解を深めること、職務遂行能力の基礎を養うこと、大学院での講義、演習などで得た知見を基に、実習における経験を省察し、その背景、文脈を読み解くことをテーマとします。

中核教員・リーダー教員養成コース▶１年次において、勤務校における実習等を通して、中核教員（リーダー教員）として必要な職務遂行能力を身につけること、大学院での講義、演習などで得た知見を基に、実習における経験を省察し、勤務校の教育課題の背景、文脈を読み解くこと、勤務校の教育課題に向き合うことにより「臨床の知」を豊かにすることをテーマとします。

■学校臨床専門実習Ⅱ

初任期教員養成コース▶2年次において、連携協力校における実習等を通して、指導力の向上を図るとともに、学校の教育課題の改善に向けた校内研究など、学校における組織的な業務を遂行する力量を身につけること、児童生徒の様子など学校における様々な状況の文脈を読み解き、その改善に向けた取り組みを推進する力量を身につけることをテーマとします。

中核教員・リーダー教員養成コース▶２年次（短期履修の場合は1年次）において、勤務校における実習等を通して、中核教員（リーダー教員）として必要な職務遂行能力の向上を図るとともに、学校の教育課題の探索、その課題の改善に向けた校内研究の企画、若手教員の育成など（リーダー教員の場合は、その課題を踏まえた学校経営戦略の作成など）、学校の組織的活性化、改善を図る力量を身につけることをテーマとします。

教科研究開発高度化系

■教科研究専門実習Ⅰ

１年次の８月～９月に３週間実施するこの実習では、附属学校園の担当指導教員から実習に関する指導を受けながら教科の授業（保育）を中心に実習を行うと共に学級担任の職務や校務分掌についても実習し、自らの実践的指導（保育）力の課題を明らかにすることを目指します。

具体的には、幼児・児童・生徒を深く理解する力、幼児・児童・生徒が深い学びを実現できるように授業（保育）を適切にデザインする力、自らの実践を省察し、実践を探究する等の実践的指導力の育成を目指します。その際、大学院における学びと学校現場での学びを相互に行き来して、理論から実践を読み解き、実践から理論を振り返ることが重要です。

■教科研究専門実習Ⅱ

２年次の４月～５月に７週間実施するこの実習では、１年次に附属学校園で行う教科研究専門実習Ⅰを基盤としつつ、大学院における学びによってこれまでに修得した専門知識や理論を、公立学校園ないしは附属学校園の担当指導教員から実習に関する指導を受けながら実習を通してより実践的なものにし、授業力（保育力）を中心とした自らの実践的指導（保育）力のより一層の向上を目指します。

具体的には、幼児・児童・生徒をより深く理解する力、幼児・児童・生徒が深い学びを実現できるように授業（保育）をより適切にデザインする力、自らの実践をより深く省察し、実践を探究する等の実践的指導力のより一層の育成を目指します。その際、大学院における学びと学校現場での学びを相互に行き来して、理論から実践を読み解き、実践から理論を振り返ることが重要です。

■現職教員院生の場合

B型入試で入学した現職教員院生は、勤務校又は附属学校園において教科研究専門実習Ⅰ、教科研究専門実習Ⅱを履修し、日常の業務をしつつ自らの研究テーマを深めます。なお教職経験6年以上の場合、教科研究専門実習Ⅰを履修したものとみなす制度により、認定される場合があります。

問題関心を拡げ深める　コース選択科目

コース選択科目は、各コースの専門分野における個々の課題意識をさらに深め、幅広い学識と高い実践力を身に付けるための科目です。科目名は、各コースのページをご覧ください。コース選択科目については、他コースの科目も履修することができます。

修了論文（省察実践研究Ⅰ･Ⅱ、実践課題研究Ⅰ･Ⅱ）2科目4単位





専門職大学院では、これまでの大学院修士課程で学位授与の要件とされていた修士論文は課せられていません。しかし、本研究科では大学院修了にふさわしい「大学院知」を修得し、教職に関する高度な専門的知識と実践的指導力を統合的に有する教員としての力量を身につけるため「修了論文」の作成を修了要件としています。それは、教職という高度専門職業人には実践的、実務的な知識や技術とともに、論理的な思考力や高い言語能力が必要とされるからです。理論的な研究成果を基に実践を深化させる試みや自らの実践を客観化、論理化し議論の俎上にのせることが大学院の学びでは大切です。

修了論文は専門職大学院での論文ですから修士論文のような学術上の新たな知見をめざすものではありません。本研究科の授業や実習で得たさまざまな知見を省察し、学術的な研究成果に依拠しながら、実践を理論的に分析、吟味し、また、理論を実践の場で具体化することがこの論文では求められます。

修了論文の作成はコース必修科目の「省察実践研究」（学校臨床力高度化系）、「実践課題研究」（教科研究開発高度化系）で行います。論文は大学院での学びの集大成となりますが、取組は入学後から始まります。アカデミック・スキルの修得に始まり、専門実習や講義、演習などでの学びを踏まえて、論文のテーマ設定を行い、特に専門実習Ⅱでの学びを基にして、論文の作成に取り組みます。

論文の作成は、さまざまな授業を通じて得た知見を整理し、再構築することにつながります。作成のプロセスを通じて、思考力、表現力、分析力、問題の背景を読み解く力など、教職に必要な基盤的能力を向上させることも目標となります。修了論文の作成により、教職大学院で学んだことを総合化、体系化し、学んだ「知」を主体的に整理し、それを通じて、自らの教師としての実践力に向き合い、その向上を図ることが期待されます。

これまでの京都連合教職大学院での修了論文のテーマ例

学校臨床力高度化系

学部新卒院生
- 「英語ライティング活動における協同学習の影響」
- 「通常学級におけるインクルーシブな学級づくり―フル･インクルーシブの実践と純包摂モデルを用いた考察―」
- 「自己決定理論に基づく学習意欲向上のための授業モデルの検討」

現職教員院生
- 「校内の各会議におけるファシリテーションが心理的安全性や同僚性の高まりに与える影響について」
- 「新任教員が抱える困難さとそれを乗り越えるための支援の在り方―新任教師の心理プロセスをたどって―」
- 「学校における「学級の荒れ」と「担任の心の負担」の軽減―学校マネジメントの視点からの考察―」

教科研究開発高度化系

学部新卒院生
- 「非言語的コミュニケーションに表現される子どもの感情の理解―教師に生じる思いをとらえなおすことを通して―」
- 「イメージ･スキーマを活用した英語の文法指導の可能性―子どもの気づきを促す教育を目指して―」
- 「「生物育成の技術」におけるコンテナガーデン製作での画像生成AIの活用」
- 「ICTを活用したハードル走の体育授業―ハードル走のHotspotsの作成と実践―」
- 「高等学校芸術科書道の仮名の書における基本用筆の指導について」

現職教員院生
- 「Historical Perspective を評価する多肢選択式ペーパーテスト問題の開発･実践･検証 ―P.Seixas らのテストを応用した中学生への実践を通して―」

学校に活力をもたらす初任期教員の養成

学校臨床力高度化系

初任期教員養成コース

募集人員 40名　学部新卒院生 教職経験3年未満の現職教員院生も含む



学部新卒院生を中心に、現職教員については教職経験３年未満の教員を対象として、教職の基礎・基本の定着を図り、それを実践へと結びつける力を養い、その力をもとに初任期教員の実践をリードすることができる人材を育成することを目的とします。この目的を達成するために、子どもの学び、成長に向き合い、その経験の中で、自らの存在、自らの教師としてのあり方を常に省察するとともに、同僚や関係者、子どもとの対話を通じてその実践を推進するという教師像を主体的に確立する基盤を形成することを目指し、省察と対話を重視したカリキュラムを編成し、初任期教員の課題に対応した教育体制を整備します。

本コースは、京都教育大学、京都橘大学、京都ノートルダム女子大学、同志社大学、佛教大学、龍谷大学の多彩な研究者教員及び教育実践に精通した実務家教員が担当します。

担当教員

氏　名	所　属	氏　名	所　属	氏　名	所　属
芦田　有一	京都府教育委員会	佐伯　卓也	京都教育大学	福嶋　祐貴	京都教育大学
安達　知郎	京都教育大学	坂　　一真	京都府教育委員会	船田　智史	龍谷大学
網谷　綾香	京都ノートルダム女子大学	寺田　沙織	京都市教育委員会	森口　洋一	同志社大学
片山　紀子	京都教育大学 系副主任	徳永　俊太	京都教育大学 コース主任	山下　和美	京都教育大学
川北　久樹	京都教育大学	新田　浩	京都府教育委員会	吉川　孝	京都教育大学
児玉　祥一	京都橘大学	波多野達二	佛教大学	吉田　秀紀	京都市教育委員会

コース必修科目 6科目12単位
●特別支援教育の理論と実践 ●現代的教育課題の教材化と授業実践 ●学校臨床とかかわり合う力
●教育相談コミュニケーション論 ●省察実践研究Ⅰ ●省察実践研究Ⅱ

コース選択科目
●授業コミュニケーション論 ●授業研究の理論と実践 ●授業力高度化演習 ●教職の専門性と倫理
●学校におけるグループダイナミクス演習 ●危機管理のための事例演習 ●子ども理解と臨床技法



初任期教員養成コース
コース主任
徳永 俊太

「あなたにとって理想の学校とはどのような学校ですか？」と問われたら、どう答えますか。これは、私が2年後期の必修授業で課している課題です。課題に取り組む際には、授業、生徒指導、学校経営の三つの視点を意識し、教員だけではなく社会にいる様々な人たちに伝わるような言葉を選ぶように伝えています。初任期教員養成コースに進まれるみなさんには、この課題にしっかりと答えられる教員になってほしいと願っています。

この課題に答えるためには、教育実践を多面的・多角的に、内側・外側から捉え、考え続けることが重要になります。このコースでは、毎週水曜日に実習を行い、木曜日に実習で得た気づきや課題を教員・院生全員で共有・議論することで、みなさんが考え続けられる機会を提供します。講義では、よりよく考えるための知見が提供されます。



初任期教員養成コース
院生（1年次生）
門阪 歩実

これまでに教育実習や学校ボランティアを通じて、様々な教育現場に関わってきました。教室にいる子ども達は1人1人個性が異なります。それが学校の面白さに繋がる所でもありますが、一人ひとりに寄り添った支援を適切に行うには難しい場面もありました。その時に、子ども理解の力を深め、より良い支援を多角的に考え続けることができる教員になりたい、そう熱意を持って、大学院への入学を決意しました。

自身の言動・行動について深く省察し、経験豊富な先生方や同じく教員を目指す仲間と対話できる環境がある教職大学院という場は、私にとって本当に恵まれた環境です。

考え続け、学び続ける姿勢を大切にし、教員としての基盤となる力を磨き、将来学校現場で活躍することができるよう、2年間を通じて、研究や実践に励んでいきたいと思います。



初任期教員養成コース
修了生
京都市公立小学校勤務
住﨑　空

私は学部生の頃、教育実習以外では教育現場に赴く機会が殆どありませんでした。そのような状況の中、4回生で教育現場について知るために学生ボランティアに参加して子どもたちと関わる中で、自分には子どもの実態を把握し、接していくスキルが不足していることを痛感しました。子ども一人ひとりに寄り添い、成長を支えていくことのできる教員になりたいと思い、進学を決意しました。省察では自分だけではなく同期や経験豊富な先生方と自分の実践について振り返ることができ、多くの刺激を得ることが出来ました。私は現在小学校教員として多忙な日々を過ごしていますが、日々の実践を自分の中で振り返り、次回はどのように改善していけばいいか考えるなど、大学院での学びが活かされていると実感しています。これからも大学院での学びを忘れず、一人ひとりの子どもとしっかりと向き合い、ともに成長していくことができるように邁進していきます。

チームづくりと組織づくりを担う教員を養成する

学校臨床力高度化系

中核教員･リーダー教員養成コース

募集人員 10名　現職教員院生（教職経験3年以上）



教職経験３年以上の現職教員を対象として、学校において実践をリードし、組織的な取り組みを活性化する中核的役割あるいはリーダー的役割を果たす人材を育成することを目的とします。

上記の目的を達成するために、初任期以降の教員を対象に、授業や生徒指導等において、子どもの実態を見つめ、その実践のあり方について他の教職員とともに探求し続ける学校臨床力を基盤に、学校全体を見渡しながら、教職員の実践が組織的力として高まっていくことを促す中核教員・リーダー教員（管理職を含む。）を育成するカリキュラムを編成し、教職キャリアの経験に柔軟に対応できる教育体制を整備します。

また学校事務職員や教育委員会事務局職員など「教育に関する職」を10年以上経験している職員も対象としています。

なお本コースは、京都教育大学、京都光華女子大学、京都産業大学、同志社女子大学の教育行政、臨床心理、学校経営を専門とする研究者教員及び校長経験のある実務家教員が指導します。

担当教員

氏　名	所　属	氏　名	所　属	氏　名	所　属
角田　豊	京都産業大学 系副主任	竺沙　知章	京都教育大学 系主任	水本　徳明	同志社女子大学 コース主任
		藤田　弘之	京都光華女子大学	山本　宗昭	京都市教育委員会

コース必修科目 4科目8単位
●現代の公教育と人間形成の課題 ●学校臨床とかかわり合う力
●省察実践研究Ⅰ ●省察実践研究Ⅱ

コース選択科目
●教育政策と教育行政・学校経営の課題 ●学校・教員の裁量権と法的責任 ●学校づくりとリーダーシップ
●学校組織改善の理論と手法 ●教職員の意識と成長 ●カリキュラムマネジメント ●教職の専門性と倫理
●学校におけるグループダイナミクス演習 ●危機管理のための事例演習 ●子ども理解と臨床技法



中核教員･リーダー教員
養成コース主任
水本 徳明

学校は複雑な社会関係の中で、これからの社会と人間に関する人々の希望を実現する場所です。

学校においてリーダーシップを発揮するということは、学校に関わる人々が教育の現実を捉え、課題を発見して、創造的にそれを解決していくことができるようにすることです。そのために、スクールリーダーは、人間と社会への洞察をもって、児童生徒や保護者、教職員の声を聴き、一人ひとりが生き生きとし、相互に語り、聴き合える関係をつくらなければなりません。

本コースでは、院生と教員が一緒に学校教育の課題に向き合う中で、リーダーとしての力量を高め、スクールリーダーとしての哲学とアイデンティティを確立してもらいたいと思います。



中核教員･リーダー教員
養成コース院生（１年次生）
京都府公立小学校勤務
田村 彰造

教師として十数年、目の前で起こる数々の出来事に懸命に向かってきました。その中で、手応えを感じる実践もあれば、後から反省するような実践もたくさん経験してきました。それらの実践は理に適っていたのか、また最新の研究や実践ではどのような対応が望ましいのかといったことに、一年間腰を据えて学べる貴重な機会になると考え、本研究科を志望しました。

これまで自分自身が実践してきたことを省察するとともに、学校教育を多面的、多角的な視点から捉えることで、教育の不易と流行は何かを学びたいです。そして、これからの時代に求められる教育について理論を基に実践する力を付け、学校現場に波及させられるような人材を目指したいと考えています。



中核教員･リーダー教員
養成コース修了生
京都市公立中学校勤務
白井 純子

大学院では、授業の中で高い専門的知識を得、過去の経験を意味づけしたり、ものの見方や考え方を再構成したりすることができました。知識の獲得と対話や自己省察を繰り返したことで、これまで無自覚だった認識を自覚し、理論と実践を結び付け整理することもできました。知っているつもりになっていること、現場に存在する固定観念や先入観についても再認識し、1年間の学びと気付きを、修了後の教育実践に生かしています。

今後も、自己研鑽をし続けるとともに、学校での諸問題について、“俯瞰的・客観的・主観的” “多面的・多角的” な見方・考え方・捉え方を大事にし、広く深く考え続けたいと思っています。教育の構造と質において、より良い学校づくりを目指し、教育改革、学校運営に取り組んでいきたいと考えています。

教科研究開発高度化系

人間発達探究コース

募集人員 15名　学部新卒院生 現職教員院生も含む

学校教育には、喫緊に解決しなければならない課題が山積しており、今後は、不確実な社会変動の中において、新たな課題も起こりうることが予想されます。そうした社会の変化に伴い、教員には、課題を多角的に捉え、状況に応じて柔軟に対応する高度な専門的資質・能力とともに、地域や学校・園の中軸として新たな教育の在り方を前向きに探究し、教育実践を協働的に創造することのできる力量が求められています。

このため、本コースでは、学校教育の基盤となる理念と価値、幼児期からの長期かつ多岐にわたる心身の発達のメカニズム、そして、エビデンスに基づく支援方法について、教育学、心理学、幼児教育、特別支援教育の視点から包括的に学びます。これらの学びを通して、理論と実践を融合し教員の専門性を高め、今日的な教育的ニーズの要請に応えうる実践的かつ協働的資質に富む指導的教員を育成します。

コース必修科目（7科目14単位）
- 人間発達セミナー
- 認知発達と学習の心理学
- 特別支援教育の理論と実践
- 子育て支援の理論
- 教育実践研究セミナー
- 実践課題研究Ⅰ
- 実践課題研究Ⅱ

コース選択科目
- 幼小接続の理論と実践
- 子育て支援の実践
- 授業力熟達の理論と課題
- 学校における道徳教育と道徳科
- 子どもの臨床心理学的アセスメントと支援
- 発達障害の特性と基本的対応
- ICT 活用の理論と実践
- 動機づけと教育の心理学
- 教育データの実践活用と社会調査法
- 教科内容構成論（※）
- 教科内容教材論（※）

（※）教科内容、教科教育に関する授業科目の説明は、16ページに記載

人間発達探究プログラム

本プログラムでは、多様な子どもの心身の発達に関する専門的理解と、教育実践に即した課題の探究を通して、これからの教育を協働的に創造する力量をもった教員を育成します。プログラムの特色として、幼・小・中・高・特別支援学校における教育を見通す幅広い視野の下、伝統的な教育学的視点をベースとして多領域にまたがる専門的内容を学ぶことができます。特に、幼児教育の専修免許取得に関わる専門科目や、心理臨床や特別支援といったすべての教育の基盤となる多様な子ども理解と実践を扱う科目の開設に特徴があります。これらの専門科目の履修と各自の課題意識を軸にした探究を通して、教育理念の理解力、状況判断力、自己省察力、課題探究力、言語表現力、支援実践力といった力量を高度化することを目指します。

教員一覧（教員名と専門分野）

相澤　伸幸（教育哲学・道徳教育学）、大久保　紀一朗（教育工学）、神代　健彦（教育史・道徳教育学）、榊原　禎宏（学校経営学）、徳岡　慶一（教育方法学）、中村　瑛仁（教育社会学）、樋口　とみ子（教育課程論）、赤松　大輔（教育心理学）、神崎　真実（青年心理学・生徒指導）、田爪　宏二（発達心理学）、西村　佐彩子（教育臨床心理学・教育相談）、古賀　松香（幼児教育学）、佐川　早季子（幼児心理学）、東村　知子（幼児教育臨床）、平井　恭子（幼児音楽）、相澤　雅文（障害児教育）、伊藤　駿（インクルーシブ教育）、牛山　道雄（障害児生理・病理）、門下　祐子（特別支援教育）、小谷　裕実（障害児生理・病理）、榊原　久直（臨床心理学）、佐藤　克敏（障害児教育）、佐藤　美幸（障害児心理）、鈴木　英太（特別支援教育）、丸山　啓史（障害児教育）

【プログラム主任からの声】

人間発達探究プログラム主任：神代 健彦



現代の教育・保育・子育てをめぐるニーズは、複雑多様化の一途を辿っています。専門職として活躍するためには、幅広い学問的知見に基づいた実践力が不可欠です。

人間発達探究プログラムは、教育学・心理学・幼児教育・特別支援教育の４つの分野から構成されている点が特色です。多様な子どもの心身の発達に関する専門的理解と、教育実践に即した課題の探究を通して、今後の教育のあり方について一緒に考えていきましょう。

教科研究開発高度化系

教科学習探究コース

募集人員 30名　学部新卒院生 現職教員院生も含む

今日の学校教育には、教科・領域における学習活動を通じて、児童生徒が変化の激しいこれからの時代にたくましく生きていくことのできるような資質・能力を培うことが強く求められています。

本コースは、教科・領域をベースとしながら、専門的な知見と広い視野にもとづいて、現代のさまざまな教育課題に応えうる深い学びを実現するための教科のカリキュラムや単元、教材などの研究開発と実践をおこないうるような高い研究遂行力と教育実践力を共に身につけ、教職を通じて学びつづけ学校や地域の教育に資することのできる教員の育成を目的とします。

コース必修科目（5科目10単位）
- 教科カリキュラム開発セミナー
- 教科授業開発セミナー
- 教育実践研究セミナー
- 実践課題研究Ⅰ
- 実践課題研究Ⅱ

コース選択科目
- 言語・文化セミナー
- 公共・文化セミナー
- 数理自然・技術セミナー
- 健康・生活デザインセミナー
- 芸術探究セミナー
- 授業力熟達の理論と課題
- 学校における道徳教育と道徳科
- 子どもの臨床心理学的アセスメントと支援
- 発達障害の特性と基本的対応
- ICT 活用の理論と実践
- 動機づけと教育の心理学
- 教育データの実践活用と社会調査法
- 教科内容構成論（※）
- 教科内容教材論（※）
- 教科教育実践演習（※）

（※）教科内容、教科教育に関する授業科目の説明は、16ページに記載

教科学習探究コースには、次の５つのプログラムがあります。

□ 言語・文化プログラム

グローバル化社会では母語と英語の高い言語コミュニケーション能力と言語文化（文学・言語学・文化論等）への関心と深い理解が重要となる。また、学校教育では確かな言語コミュニケーション能力を育成できる教員、多様な文化的背景をもつ児童生徒への日本語指導ができる教員も求められている。

本プログラムでは、国語科と英語科が相互に連携することで言語教育のさらなる充実を目指したい。国語と英語の学習デザインに求められる専門性（文学・言語学・教科教育等）を高めるとともに、言語コミュニケーション能力育成のための教科横断的学習を推進できる教員を育成する。

教員一覧（教員名と専門分野）

天野　知幸（国文学）、植山　俊宏（国語科教育）、小林　賢太（国文学）、谷口　匡（漢文学）、寺田　守（国語科教育）、濵田　麻里（言語学）、アンドリュー　オーバマイヤー（英語科教育）、奥村　真紀（英語文学）、児玉　一宏（英語学）、染谷　藤重（英語科教育）、西本　有逸（英語科教育）

【プログラム主任からの声】

言語・文化プログラム主任：天野 知幸



言語を学ぶことは、言語そのものを学ぶと同時に、言語文化を学ぶことでもあります。国語科・英語科の教師は、体系的なカリキュラムに沿った指導を行いながらも、あわせて子どもたちを言語文化に招待する役割を担っています。そのためには、学び続ける反省的実践家としての教師像を獲得する必要があります。言語・文化プログラムでは、大学院で学んだ新しい知識・技能を教室に活かすという単方向の学びではなく、実践の中で学んだことを大学院で深めていく実践知を重視しています。

□ 公共・文化プログラム

変化が激しく前例が通用しない現代では、物事を多面的・多角的にとらえ、平和で民主的な国家・社会を主体的・協働的に形成しうる資質・能力を身につけることが、かつてないほど求められている。

本プログラムでは、過去から現在への時間的な視点、日本と世界、都市と自然などの空間的な視点、法・政治・経済などの社会システムの視点からの深い理解を基礎にして、社会科、地歴科・公民科をベースに、こうした資質・能力を育てられる実践的指導力をそなえた教員の育成をめざす。

教員一覧（教員名と専門分野）

石川　誠（公民科教育、経済学）、荻野　雄（公民科教育、政治学）、小栗　優貴（社会科教育）、香川　貴志（地理教育、地理学）、
斉藤　恵太（歴史教育、西洋史学）、武島　良成（歴史教育、近現代史学）、土屋　雄一郎（公民科教育、社会学）、中村　翼（歴史教育、日本史学）、
比良　友佳理（公民科教育、法律学）

【プログラム主任からの声】　公共・文化プログラム主任：香川 貴志



授業力があがると自信とゆとりがうまれ、教師生活が豊かになるとよくいわれます。授業力の向上には、土台となる広く深い知識、それを授業に落とし込む確かな技術、そしてとりわけ社会科系科目では目の前の児童・生徒の実態をふまえた上での市民的な課題意識を鍛え上げることが重要です。本プログラムは、日々の生活や授業、セミナーやフィールドワーク、実践演習等の機会をいかし、教員との対話や院生同士の切磋琢磨を通じて、よりよい授業を目指して試行錯誤できる場でありたいと考えています。

□ 数理自然・技術プログラム

IoTやAI等の技術の発展に伴い、膨大な知識・情報を適切に扱う能力が必要となる知識基盤型社会では、グローバルな視点から科学的、創造的に思考・行動することが求められる。

本プログラムでは、社会・自然などを科学的に観察・分析する力、及びそれらを判断・行動へと展開していく力の養成を企図する。こうした力を児童・生徒の発達段階に応じて、協働的、段階的に育成することのできる教員を養成する。

教員一覧（教員名と専門分野）

赤川　佳穂（応用数学）、熊崎　耕太（解析学）、黒田　恭史（数学科教育）、中村　力（代数学）、水上　雅昭（解析学）、吉安　徹（幾何学）、
今井　健介（生物学）、亀田　直記（理科教育）、鈴木　祥子（化学）、田中　里志（地学）、谷口　和成（物理学）、藤浪　理恵子（生物学）、向井　浩（化学）、
山下　良樹（物理学）、赤井　淳嗣（機械）、伊藤　伸一（情報）、多田　知正（情報）、中峯　浩（電気）、原田　信一（技術科教育）、南山　泰宏（農業）

【プログラム主任からの声】　数理自然・技術プログラム主任：向井 浩



これからの学校現場では、理系教科間の垣根を低くしたSTEM（Science、Technology、Engineering、Mathematics）教育がより推進されるようになります。一つの専門教科に加えて、こうした教科横断的な学習をデザインし、実践することのできる資質・能力を向上することができるよう、数学、理科、技術を専門とする教員が共同して授業を運営しています。新しい教育のニーズに対して、学校現場を先導できる教員の養成を目指して取り組んでいきたいと思います。

□ 健康・生活デザインプログラム

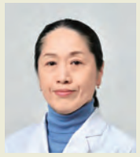
人生100年時代を見据え、Quality of Life（人生の質）を向上させるために、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、スポーツなどの余暇や衣食住をはじめとする暮らしを創造し、持続可能な社会を構築していく必要がある。そのためには、健康・生活・運動に関する課題を見つけ、より良い生活と豊かなスポーツライフの実現に向けた創造・工夫ができ、自分らしい人生を設計していく力の育成が求められている。

本プログラムでは、小・中・高等学校の保健体育科教育や家庭科教育について、健康・生活・スポーツ分野の教育研究を深め、教科教育学と教科内容学を有機的に結び付け、新たな学びをデザインできる高度な実践的指導力を有する教員を育成する。

教員一覧（教員名と専門分野）

井上　えり子（家庭科教育）、權　眞煥（生活工学）、延原　理恵（住居学）、深沢　太香子（被服学）、松本　歩子（保育学）、湯川　夏子（食物学）、
浅沼　徹（学校保健）、上床　輝久（思春期青年期精神医学）、大島　秀武（生理学）、岡田　雄樹（保健体育科教育）、
小松崎　敏（保健体育科教育）、小山　宏之（運動学）、坂部　崇政（スポーツ心理学）

【プログラム主任からの声】　健康・生活デザインプログラム主任：深沢 太香子



健康・生活デザインプログラムは、家庭（家政科）と保健体育（体育学科と保健管理センター）の2教科・分野から構成されています。両教科には、児童・生徒が将来を見据えて、心身ともに健康的でより良い生活を営む力を育むという、共通の使命があるからです。暮らしの在り方は、社会の多様化に伴い変化しています。こうした変化・課題への対応力も培うために、本プログラムでは、各分野における専門性と実践力の向上に加えて、例えば、動作解析のICT活用や衣服による身体機能支援など、両分野を横断して、心身の健康と生活の密接な関わりを学ぶことができます。

□ 芸術探究プログラム

科学技術の発展においてこそ芸術教育のあり方が問われており、芸術的な感性を生かしながら創造的に思考し、表現していく力がこれからの時代を生きる人々には求められている。

本プログラムでは、協働的・実践的な学びを通して教育における芸術の意味を探究し、音楽教育・美術教育・書道教育の各分野の教育研究を深めることを通じて、児童・生徒の発達段階に応じた芸術分野の学びをデザインし、かつ教育実践をリードできる教員を育成する。

教員一覧（教員名と専門分野）

小笠原　真也（器楽）、樫下　達也（音楽教育）、清村　百合子（音楽科教育）、増田　真結（作曲）、山口　博明（器楽）、丹下　裕史（工芸）、
西薗　静（絵画）、日野　陽子（美術教育）、舟引　遥香（書道）、安江　勉（デザイン）、山内　朋樹（美術理論・美術史）

【プログラム主任からの声】　芸術探究プログラム主任：日野 陽子



今、学校現場では、教育課程を計画的、組織的に運営するため、各教科を関連付けたカリキュラム・マネージメントが求められています。芸術探究プログラムでは、音楽、美術、書道それぞれの専門性を高めると共に、芸術と社会の関わりについても学ぶことができます。長期に渡る教育実習においては、こうした教科の創造的な特性によって築くことのできる子ども達との関係や可能性を体験し、研究することができます。芸術系教科を中心としたカリキュラムをマネージメントし、子ども達を柔らかく見守り、寄り添っていく力を身につけていきませんか。

教科内容・教科教育に関する授業科目は、教科・分野ごとに多彩な授業を開講します！

各教科・分野から受講する授業科目を選択し履修できます。

教科内容構成論　国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術、家庭、英語

教科内容教材論　国語、社会、数学、物理、化学、生物、地学、音楽、美術、保健体育、技術、家庭、英語

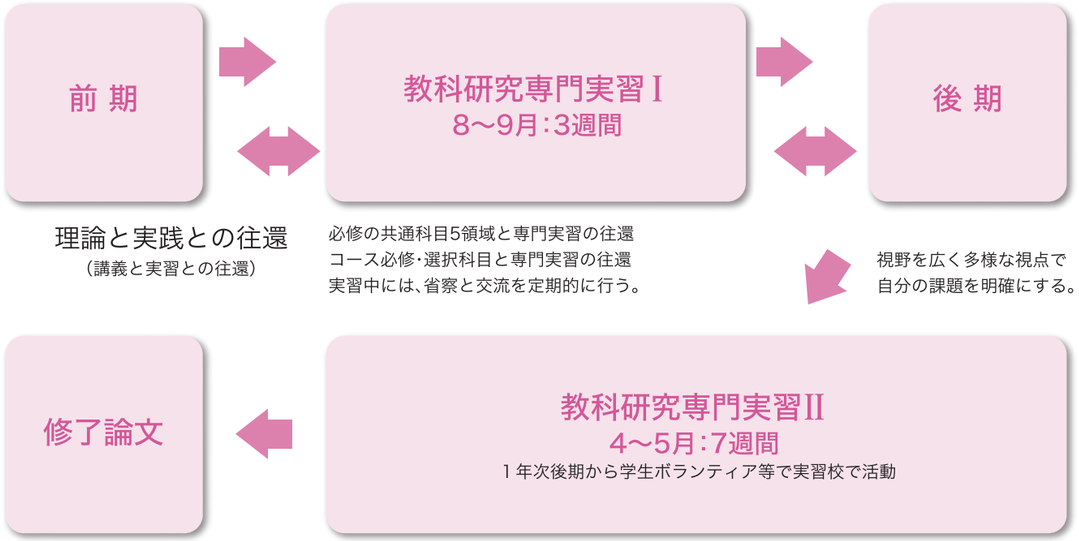
教科教育実践演習

【国　　語】日本語学、近現代文学、古典文学、漢文学、日本語教育学
【社　　会】日本史、西洋史、近現代史、地理、法律、政治、社会学、経済
【数　　学】解析、応用数学
【理　　科】科学教育、放射線物理学、分析化学、有機化学、生態学、植物進化形態学、地質鉱物学、理科教育学
【音　　楽】器楽、伴奏、鑑賞、創作、音楽教育史
【美　　術】絵画、デザイン、工芸、美学・美術理論、美術教育史、書道
【保健体育】バイオメカニクス、スポーツ心理学、運動生理学、健康社会学、学校保健
【技　　術】機械、電気、生物育成、シミュレーション情報、情報ネットワーク
【家　　庭】衣生活、食生活、住生活、保育、生活工学とICT教育
【英　　語】構文文法論、イギリス文学論、語彙指導

※2025年度開講科目です。

教科研究開発高度化系

教科研究開発高度化系カリキュラムマップ



教職大学院で学んだことを総合化、体系化し、学んだ「知」を主体的に整理する。
それを通じて、自らの教師としての実践力に向き合い、その向上を図る。

教職大学院のカリキュラムの特色のひとつに「教職専門実習」（10単位）があります。講義による学びと学校現場での学びを往還させ、理論と実践の架橋をめざす新しい教育を生み出す重要な科目がこの教職専門実習です。学部での教育実習が教科指導・生徒指導・学級経営等にかかわる基礎的な実習であることに対して、高度に専門的な実務実習である教職専門実習は一定程度長期間にわたり、教科指導や生徒指導、学級経営等の課題や問題に主体的に取り組むことのできる資質能力を培うことがねらいとなります。

教科研究開発高度化系では、「教科研究専門実習」として、教育活動全般、長期（合計１０週間）にわたる実習を通して、大学院で修得した専門知識や理論と実務体験を融合させ、授業（保育）を展開する力を中心とした自らの実践的指導力の一層の向上を目指します。

特に、幼児・児童・生徒を深く理解する力、授業（保育）を適切にデザインする力、自らの実践を省察する力などの教員として必要な資質能力の向上を図るとともに、これまでの学修と本実習の成果を踏まえ、修了論文のテーマに関する研究を深めていきます。

実務家教員

石井　大記、小長谷　直樹、秋山　雅文、市田　克利、木村　進哉、國原　信太郎、桑名　良幸、塩川　道子、砂田　耕治、髙野　史朗、髙橋　詩穂、田邊　美野利、辻　喜朗、西山　由美、野ヶ山　康弘、吉田　耕平

【修了生からの声】　2025年3月 芸術探究プログラム修了：**奥原 実紅** 浜松市公立中学校勤務



教科研究開発高度化系では、自身の専門教科をより多角的な視点から見つめ直すことができます。各教科の専門性を兼ね備えた院生や現職教員が互いに対等な立場から繰り広げられる学び合いは、様々な発見や気づきに溢れたとても有意義な時間です。また、授業や研究で行き詰まった時には頼れる仲間や先生方が快く相談に乗ってくれます。この２年間、私が向上心を持って学び続けられたのは周りの人の存在があったからです。今後も人との繋がりを大切にしながら、自身の専門性を磨き続ける教員でありたいと思います。

現職教員が学びやすい教職大学院

履修形態

現職教員の修学機会を拡大するための特例措置があります。現職教員に対しては、次に示す履修形態が設定されています。

■短期（１年）履修型（中核教員・リーダー教員養成コースに限る）

「短期（１年間）履修」とは、昼間及び夜間開講科目を履修することによって１年間で修了することができる制度で、概要は次の通りです。

入学志願書に併せて提出された短期履修の申請に基づき審査を行い、許可された場合は修業年限が１年になります。入学後の申請は、許可されません。対象者は、教職経験６年以上の現職教員で、審査により、学校臨床専門実習３単位を履修したものとみなすことのできる教職経験と力量を有すると認められた者で、１年間フルタイムで授業に専念できる現職教員（教育委員会から派遣される教員、大学院修学休業制度を利用する教員等）です。ただし「教職専門実習」を勤務校で実施する場合があります。

■１年次は勤務を離れる標準年限（2年）履修型

修業年限２年のうち、１年次には勤務校（研究機関を含む）を離れて本研究科の授業に専念し、２年次には勤務校に復帰し、勤務しながら夜間等の時間を利用して通学し、授業及び実践指導を受けて修了する履修形態です。ただし「教職専門実習」の履修について勤務校で実施できることが条件となります。

■夜間のみでの標準年限（2年）履修型

１年次、２年次とも勤務校に勤務しながら、夜間等の時間を利用して通学し研究科の授業及び実践指導を受けて標準年限の２年間で修了する履修形態です。ただし、「共通科目」等で設定されているフィールドワークに参加できること、また「教職専門実習」の履修について、勤務校で実施できることが条件となります。

■長期（3年～4年）履修型

「長期履修学生」制度とは、主に夜間開講科目を履修しながら、３年間または４年間をかけて修了する制度で、概要は次の通りです。

現職教員を始め職業を有している等の理由により、標準修業年限（２年）での修了が困難な場合には、本人の申請に基づいた審査の上で、標準修業年限を超えて計画的に履修することができます。許可される修業年限は３年または４年です。大学が指定する期間内（入学前）に「長期履修」を申請し許可された場合は２年間分の授業料を３年間または４年間にわたって分割して納付します。入学後には、大学が指定する期間内（１年次）に申請することも可能ですが、この場合は、１年次の授業料は通常通りで、軽減適用は翌年度からになります。ただし、夜間のみで履修する場合は、標準年限（２年）履修型と同じ要件が必要です。

教職専門実習の履修に関する特例

現職教員院生については、「教職専門実習」の履修について、「課題レポート」等の審査の結果、3単位を履修したものとみなす制度があります。

履修する教職専門実習科目は、表の通りです。

なお、履修したとみなす単位数は入学後の審査によって決定されます。

教職経験年数	教職経験により履修したとみなすことのできる単位数	履修する教職専門実習
６年未満	0単位	学校臨床専門実習　（10単位） 教科研究専門実習　（10単位）
６年以上	3単位	学校臨床専門実習　（7単位） 教科研究専門実習　（7単位）





教育訓練給付制度（専門実践教育訓練）について

令和５年１０月より厚生労働省教育訓練給付制度の専門実践教育訓練講座指定を受けています。詳細はp.20をご確認ください。

2 年間の学びのイメージ

本研究科の標準修業年限（2年）での学びの標準モデルは、次の通りです。

1年次前期 教職大学院の学びのスタイルに出会う時期。2年間の修学の見通しと目標を明確にします。

1年次後期 共通科目の履修を通じて教職への視野を広げます。専門実習Ⅰを通じて、学校現場の課題を探ります。また講義、演習を通じて、研究の課題を明確にします。

2年次前期 専門実習Ⅱに集中し、実践を通して学ぶ力を育成します。教職を目指す院生は教員採用試験に取り組み進路を実現します。

2年次後期 修了論文の作成を中心に2年間の学びを総括します。選択科目等の履修を通して教育に関する学びを広げ深めます。

■授業の時間帯は、午後から夜間が原則です。

4 時 限	14:35 ～ 16:05
5 時 限	16:20 ～ 17:50
6 時 限	18:20 ～ 19:50
7 時 限	20:00 ～ 21:30

午前中は、学校現場や関連施設でのフィールドワークを行うことが可能になっています。非常勤講師を務めることもできます。
現職教員が夜間の６時限・７時限のみの履修で修了に必要な単位が修得できるように時間割が組まれています。

教員免許状の取得と教育学部開設授業科目の履修

本研究科で必要な単位を修得し修了すれば、既に取得している幼稚園・小学校・中学校（各教科）・高等学校（各教科）の一種免許状をもとに、専修免許状を取得することができます。ただし、所属するコース等により希望する学校種の免許状が取得できない場合があります※1

なお、本研究科で開設する科目は専修免許状取得のための科目であり、一種及び二種免許状の取得には使用できません。

京都教育大学教育学部開設授業科目を履修することで、新たに小学校免許状や中学校・高等学校の他教科の免許状を取得できることがあります。※2

※1　本研究科で取得できる専修免許状の種類・教科は次の通りです。
幼稚園・小学校・中学校（国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術、家庭、外国語（英語））・高等学校（国語、地理歴史、公民、数学、理科、音楽、美術、工芸、書道、保健体育、家庭、情報、農業、工業、外国語（英語））
幼稚園専修免許状の取得は、人間発達探究コースに所属し、幼児教育に関する科目を履修することが必要です。

※2　教育学部開設科目の受講については以下のことに留意してください。
取得希望の免許状によっては、研究科の授業との重複などで取得できない場合があります。
教育・研究に支障のない範囲で教育学部開設科目の履修を認めます。
ただし、教育実習等の一部科目については、実地教育運営委員会の承認や事前に実施する説明会等への出席が必要です。
時間割は予告なしに変更されることがあります。
履修が認められるのは原則として一年間１２単位までです。ただし、教員免許状やその他の資格を取得する場合、担任教員の指導を受けて理由書を提出し、承認を得た場合は、特例として一年間２０単位まで認める場合があります。なお、１２単位を超えた単位分については、当該単位数に相当する授業料が必要です。

単位互換制度による他大学大学院科目の履修

京都連合教職大学院では、京都大学大学院教育学研究科、鳴門教育大学大学院学校教育研究科及び立命館大学大学院教職研究科と協定を締結し、単位互換制度を実施しています。他大学の授業科目を受講することにより、幅広い専門性を身につけるとともに、他大学の院生と交流を深めることができます。

京都大学提供科目
- 臨床人間形成学実習Ⅰ
- 臨床人間形成学実習Ⅱ

立命館大学提供科目
- 開発教育プロジェクトの実践と課題

鳴門教育大学提供科目
- 学校ビジョンの構築と教職員の組織化
- 学校におけるカリキュラムマネジメントの推進
- 家庭・地域・学校の連携構築

※2025年度単位互換他大学提供科目です。提供科目は予告なしに変更されることがあります。

上海師範大学で行う教育研修

京都教育大学連合教職実践研究科と上海師範大学との間で、包括学術交流協定を結び、グローバル社会で活躍する教員を育成する国際化プログラムを実施しています。希望者は英語を用いて、現地の教職を目指す大学院生と交流し、学校見学・実地参加観察・実地教育などを体験することができます。

支援体制

就職支援

就職支援担当の客員教授と担任教員（研究者・実務家）が入学時から修了後の進路を見すえたきめ細かい就職指導を行います。

キャリア支援担当

井上　桂一　客員教授
津知　隆一　客員教授



教員就職ガイダンス

- ◆進路・就職に関する全員個別面談・意向調査（4月に1年次、5月に2年次）
- ◆教職大学院の推薦選考枠の対象者に対する指導（4月～ 5月、2年次）
- ◆教員採用試験対策直前セミナー（6月、1年次・2年次）※
- ◆教員採用二次試験対策セミナー（8月、一次試験合格者対象）※
- ◆就職に関する個別面談（9月）
- ◆授業実践力向上セミナー（10月、1年次・2年次）
- ◆教職教養対策セミナー（2月、1年次）
- ◆教職実践スキルアップセミナー（2月、2年次）
- ◆教員採用試験不合格者に対する講師任用支援

●※の教員採用試験対策セミナーは、京都教育大学教育学部と合同で実施します。
●修了時に専任教員採用とならなかった場合にも、講師への任用支援を行います。また、次年度の教員採用試験への支援も行います。

奨学金等の修学支援制度

優れた教育者をめざして大学院で学ぼうとする意欲を支える経済的な支援制度が整っています。

入学料・授業料の免除及び猶予

「経済的理由によって納付が困難であり、かつ学業優秀と認められる者」等、一定の要件に該当する学生については、選考の上、入学料については全額または半額免除もしくは一定期間納付が猶予される制度があります。
また、授業料についても同様に、一定の要件に該当する学生については、選考の上、全額または一部の免除もしくは一定期間納付が猶予される制度があります。

奨学金

■**日本学生支援機構奨学金**
一定の要件に該当する学生について、選考の上、学資が貸与される制度です。
・第一種奨学金（無利子貸与）‥50,000円又は88,000円のいずれか希望月額を選択
・第二種奨学金（有利子貸与）‥５万円・８万円・１０万円・１３万円・１５万円の中から希望月額を選択

「授業料後払い制度」
在学中は授業料を納付せず、卒業後の所得等に応じて後払いできる制度があります。授業料相当額の第一種奨学金が直接大学に授業料として振り込まれます。別途、生活費分の奨学金（月額２万円又は４万円）も貸与可能です。

「特に優れた業績による奨学金返還免除制度」
大学院で第一種奨学金（授業料後払い制度含む）の貸与を受け、在学中に特に優れた業績を挙げたと学内及び日本学生支援機構から認められた場合に、奨学金の全部又は半額の返還が免除される制度があります。
また、大学院で第一種奨学金（授業料後払い制度含む）の貸与を受け、教員採用選考等に合格し、大学院修了の翌年度（4月1日）から正規教員として勤務する場合に、奨学金の全部の返還が免除される「教員免除」の制度もあります。

地方公共団体及び民間団体の奨学金制度もあります。

保険

本学では、教育研究活動中の事故補償のため、以下の保険に加入していただきます。

■**学生教育研究災害傷害保険**
学生が授業中や課外活動中などにおいて、事故により傷害を受けた場合に補償されます。

■**学研災付帯賠償責任保険**
学生が授業中や学校行事参加中などにおいて、他人にケガをさせたり、他人の物を壊したりした場合に被る法律上の損害賠償が補償されます。
（対象となる事故例：教育実習中、実習先の機械を使用し、誤って壊してしまった。）

＊詳しくは京都教育大学学生課まで問い合わせてください。

厚生労働省指定の教育訓練給付制度（専門実践教育訓練）

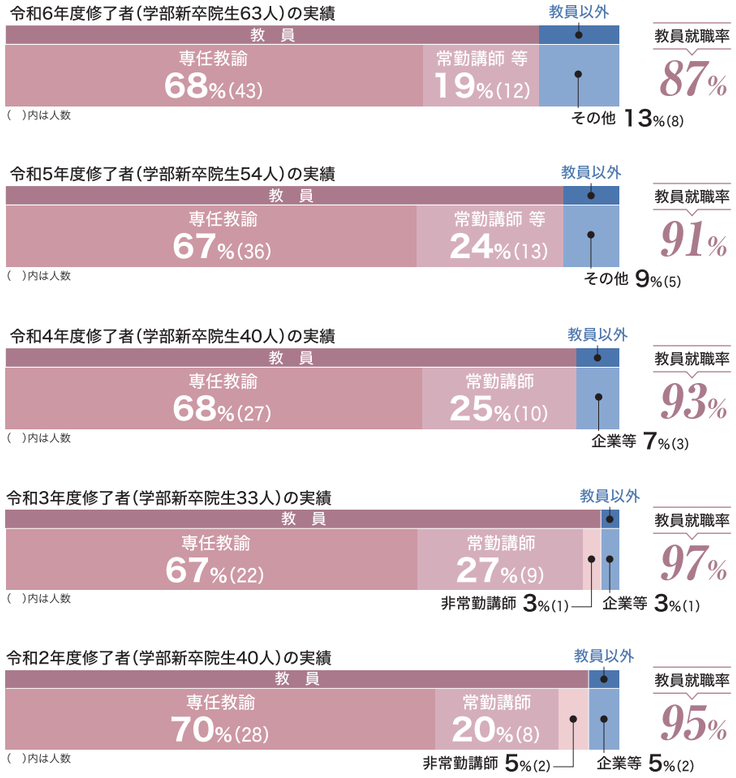
本研究科は、令和５年１０月より教育訓練給付制度の専門実践教育訓練講座指定を受けています。
■指定対象コース：中核教員・リーダー教員養成コース　※長期履修制度を利用する場合は対象外
■支給対象者：一定の条件を満たす雇用保険の被保険者（在職者）または被保険者であった者（離職者）※公務員は対象外
■支給額：受講（在学）中は、教育訓練経費（授業料及び入学料）の５０%に相当する額（上限額あり）が支給されます。また修了後、一定の条件を満たせば、修了までの教育訓練経費の８０%に相当する額（上限額あり）と在学中の既支給額との差額が支給されます。

＊詳しくはハローワークへ早めに問い合わせてください。

進路状況

教職大学院の特色を生かし、個に応じた実践的な指導で教職への夢を実現させます。

進路状況



学校種別教員就職状況（専任教諭、常勤講師、非常勤講師）

		内　訳				
	合　計	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
幼稚園・こども園	2	—	—	—	2	0
小　学　校	78	15	15	17	13	18
中　学　校	78	13	8	13	21	23
高 等 学 校	49	8	9	7	12	13
特別支援学校	5	2	0	0	1	1
合　計	212	38	32	37	49	55

専任教諭就職先（実績）

（都 道 府 県）　京都府、大阪府、兵庫県、滋賀県、奈良県、和歌山県、三重県、千葉県、東京都、埼玉県、神奈川県、新潟県、富山県、石川県、福井県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、広島県、鳥取県、山口県、香川県、愛媛県、高知県、福岡県、佐賀県、長崎県、大分県、栃木県、島根県

（政令指定都市等）　京都市、大阪市、神戸市、札幌市、千葉市、川崎市、横浜市、浜松市、新潟市、岡山市、福岡市、熊本市、奈良市



入学者選抜について

アドミッション・ポリシー

以下のような方の入学を期待しています。

1．教職に強い関心をもち、教育について思考し、学校園づくりの一員として将来活躍しようとする者
2．実践的な指導や授業を展開する前提となる、基礎的な知識・技能を身につけている者
3．自らの置かれた状況を客観的に判断して、周りの人たちと協働して主体的に課題を解決しようとする者
4．教師として社会に貢献しようとする責任感と使命感をもち、教育の場で中核を担い得る者

募集人員、入試区分、学力検査科目等

系	コース	プログラム	募集人員（対象）［試験科目］	
学校臨床力高度化系	初任期教員養成コース		40名	A型入試（一般受験者対象）［試験科目：専門科目、口述試験］ A型入試（連合参加大学特別推薦者対象）［試験科目：口述試験］
学校臨床力高度化系	中核教員・リーダー教員養成コース		10名	B型入試（現職教員等対象）［試験科目：小論文、口述試験］
教科研究開発高度化系	人間発達探究コース	人間発達探究プログラム	15名	A型入試（一般受験者対象）［試験科目：専門科目、口述試験］ B型入試（現職教員等対象）［試験科目：小論文、口述試験］ 特別入試（6年制教員養成高度化コース対象）［試験科目：口述試験］
教科研究開発高度化系	教科学習探究コース	言語・文化プログラム 公共・文化プログラム 数理自然・技術プログラム 健康・生活デザインプログラム 芸術探究プログラム	30名	

入学者選抜や出願資格・出願要件等の詳細については、令和８年度京都教育大学大学院連合教職実践研究科学生募集要項を参照してください。

※特別入試（６年制教員養成高度化コース対象）は、京都教育大学６年制教員養成高度化コースに所属する学生を対象としています。詳細については、別途発行する「学生募集要項［６年制教員養成高度化コース対象］」を確認してください。

選抜方法等

入学者の選抜は、A型入試（一般受験者対象）、A型入試（連合参加大学特別推薦者対象）、B型入試（現職教員等対象）、特別入試（６年制教員養成高度化コース対象）の別に、学力検査等の成績及び成績証明書等の内容を総合して判定します。

出願期間・学力検査日・合格発表日

	出願期間	学力検査日	合格発表日
7月選抜	令和7年6月17日(火) ～令和7年6月30日(月)	令和7年7月26日(土)	令和7年8月1日(金)
10月選抜	令和7年9月24日(水) ～令和7年9月29日(月)	令和7年10月18日(土)	令和7年10月24日(金)
2月選抜	令和7年12月11日(木) ～令和7年12月19日(金)	令和8年2月7日(土)	令和8年2月13日(金)

※A型入試（連合参加大学特別推薦者対象）は、10月選抜及び2月選抜において実施します。

検定料 …… 30,000円　**入学料** …… 282,000円　**授業料（年額）** …… 535,800円